

# 栃木県中学校長会 会報

## 昭和53年度・栃木県中学校長会 運営方針ならびに重点目標(案)

### 運営方針

会規約第3条本会の目的に則り学校教育の振興充実を図るとともに、いっそう義務教育尊重の気風を高揚し、もって教育栃木の建設にまい進する。

そのために

- 1 会員相互の共通理解を深め、教育の正常な推進を図る。
- 2 組織的な研修活動を活発にし目的達成に努める。
- 3 教育関係諸機関、諸団体との連絡を密にし活動を展開する。

### 重点目標

- 1 会員の研修活動の推進
  - (1) 専門職にふさわしい組織的研修活動
    - ア. 使命感の確立・深化
    - イ. 新教育課程の研究
    - ウ. 学校経営の諸問題の研究
- 2 教職員の人材確保対策の推進
  - (1) 教職員の適性配置
  - (2) 教職員の待遇ならびに勤務条件の改善
  - (3) 教職員養成制度の改善
- 3 義務教育尊重の気風の高揚
  - (1) 教職員の勤務意欲の高揚
  - (2) 教育予算の増額
  - (3) 現行標準法の改善
  - (4) 県単職員の増員
- 4 生徒の教育・福祉条件の充実に促進
  - (1) 健全な校外活動推進のための施設設備の拡充

- (2) 生徒の体育活動充実のための補助金の増額  
(国体を控えて中体連に対する県費並びに市町村費補助の増額を含む)
- (3) 交通安全施策の改善充実
- (4) 望ましい家庭教育の普及ならびにPTAとの協力
- (5) 心身障害児教育施設の設置促進
- (6) 同和教育の推進
- (7) 公立高等学校増設の推進ならびに入試制度の研究と改善
- (8) 私立高校への県費補助の増額
- (9) 教育会館建設の促進

### 本会運営について

- 1 県中学校長会総会(一条中学校)
 

5月13日(土)
- 2 理事会・協議員会
  - (1) 理事会・協議員会 4月18日(火)
  - (2) 定期総会 5月13日(土)
  - (3) 理事会・合同専門部会 6月6日(火)
  - (4) 理事会 10月3日(火)
  - (5) 理事会 54年1月18日(木)
  - (6) 理事会・協議員会
 

2月23日(金) 24日(土)
- 3 専門部会(各部必要に応じて)
- 4 義務教育課との懇談会 11月初旬
- 5 全日本中学校長会総会
 

5月25日(木) 26日(金)
- 6 全日中役員研修会(東京)
 

8月10日(木) 11日(金)
- 7 第30回関東甲信越地区中学校長研究協議会(大宮)
 

6月15日(木) 16日(金)
- 8 全日本中学校長会岩手大会
 

9月28日(木) 29日(金)
- 9 義務教育振興大会 11月初旬

昭和52年度 会務報告

期 日	場 所	会 議 名	要 項	参加者
52. 4. 19 (火)	宇・旭中	理事・協議員研修会	・52年度事業計画・予算案について ・総会・30周年記念式典について ・30年誌の編集について ・52年度役員について ・退会者・表彰者の確認	51 名
52. 5. 7 (土)	グランドホテル	定期総会  30周年記念式	・51年度会務・決算報告 ・52年度事業計画・予算案審議 ・役員選出 体験発表(3名) ・祝宴(グランドホテル)	全 員
52. 5. 26 (木) 27 (金)	国立教育会館	全日中定期総会	・51年度決算について ・52年度活動・運営方針について ・52年度予算について ・全日中校長会綱領について	代議員 4名他
52. 6. 3 (金)	宇・旭中	理事研修会  専門部会	・全日中基金募集について ・30周年記念事業について ・日本教育会について ・正, 副部長の選出 ・年間計画について	65 名
52. 6. 16 (木) 17 (金)	群馬県前橋市	関プロ中学校長研究協議会	・会務報告, 51年度決算, 52年度予算 ・全体協議, 分科会研究協議	55 名
52. 6. 25 (土)	宇・一条中	30年誌編集委員会	・県中学校30年誌編集 内容項目, 執筆担当者, 執筆要領 編集予算等について	32 名
52. 7. 11 (月)	宇・一条中	理事研修会 (臨時)	・全日中基金募集について ・県中学校30年誌編集について	31 名
52. 9. 12 (月)	宇・一条中	正・副会長研修会	・理事会の運営について ・県中学校長会今後の課題について	
52. 9. 27 (火)	宇・一条中	30年誌編集委員会	・編集作業の予定について ・編集予算案の作成	12 名

期 日	場 所	会 議 名	要 項	参加者
52. 10. 4 (火)	宇・旭中	理事研修会	・全日中基金づくりについて ・県教委への要望事項について	30 名
52. 10. 4 (火)	宇・旭中		・30年誌の編集について	
52. 10. 11 (火)	宇・一条中	30年誌編集委員会	・30年誌の編集について ・編集関係予算について	12 名
52. 10. 13 (木)			・県立高等学校入試のための学力検査 についての要望書提出(県教委)	会長他 2名
52. 10. 27 (木) 28 (金)	東京文化会館	中学校教育 30年記念式典 ならびに 全日中東京大会	・中学校教育30年記念式典 全体協議 研究発表	49 名
52. 11. 7 (月)			・本県中学校教育の振興充実に関する 要望書提出(県教委)	会長他 3名
52. 12. 5 (月)	宇・一条中	義務教育課との懇談会	・義務教育推進向上のための諸問題に ついて	20 名
53. 1. 10 (火)			・教育諸団体による要望書提出(県議 会自民党政調会)	会長他 1名
53. 1. 13 (金)		正・副会長研修会	・理事会の運営について ・予算の執行について	
53. 1. 20 (金)	宇・一条中	理事研修会	・52年度運営の反省 ・53年度の運営方針ならびに重点目標 について ・53年度予算編成の方針について	30 名
53. 2. 7 (火)	宇・旭中	30年誌編集委員会	・30年誌の刊行について ・30年誌刊行費の決算案について	12 名
53. 2. 24 (金) 25 (土)	藤原町	理事・協議員研修会	・各専門部の活動について ・30年誌の刊行について ・53年度総会について ・全日中・関プロの総会・研究会の出 席について	56 名

### 専門部活動状況報告

#### 1 調査部

部長 塚原 茂

- 1 調査専門部会 昭和52. 6. 3
- 2 活動状況
 

全日中調査部の調査と連携して本県中学校教育の実態を明らかにし、県中学校長会活動、専門部の活動に対し資料を提供した。

#### 3 調査内容

- (1) 昭和52. 4 全日中調査
  - ・中学校数、学級数、生徒数、教職員数の増減状況
  - ・昭和52年度教育費（県負担）
  - ・公立中学校の学級数別教員定数
  - ・高校の入試制度および進学状況について
  - ・公立中学校長の退職について
  - ・小・中・高教員の需給状況
  - ・小・中学校教員に対する県教委異動方針
  - ・教員平均給および初任給
- (2) 昭和52. 7 全日中調査
  - ・教員の待遇
  - ・教員1人当りの旅費
  - ・校長の待遇について
  - ・公立中学校長年令別人数
  - ・特殊学級に関して
  - ・教員の資質向上について
  - ・校長・教頭の選考制度
  - ・教育課程に関する調査
  - ・担当教科数・免許外担当状況
  - ・学校給食実施状況
  - ・寄宿舎に関する調査
  - ・へき地の学校教育

（付記）調査資料の収集にあたり、栃木県教育委員会のご協力をいただきました。

また、調査専門部員各位、各中学校のご協力に感謝します。なお、調査結果については、報告書として各中学校に配布しました。

#### 2 研修部

部長 飯田 弘

- 1 6月3日 旭中学校において専門部会を開き次のとおり研究主題、今後の研究の進め方について検討する。役員も次のとおり決定した。

(イ) 部長長 飯田 弘 (宇・陽北中)  
副部長 渡辺 正利 (河・古里中)

#### (ロ) 研究主題

当面する学校運営諸問題の研究

#### ◎共通研究題

中学校新教育課程編成上の問題点  
……主に学校裁量の時間の取扱いについて

#### ◎各地の実状に応じた問題の研究

- 2 各地区の研修状況の報告と集計
 

7月7日開催予定の研修会は文書報告の集計をもって代える。

#### 3 研修専門部会開催（11月18日陽北中）

- (イ) 各地区の研修状況の報告と討議
 

各地区で取りあげられた主な議題は次のようなものが多かった。

- ・スポーツの振興と部活動のあり方
- ・創意を生かした学校裁量の時間の運営について
- ・学校行事のあり方……部外行事のあり方
- ・同和教育への構え・修学旅行の反省
- ・主任のあり方と生かし方
- ・家庭学習のあり方

- (ロ) 昭和53年度の研修課題を次のように決定した。

研究主題 当面する学校運営諸問題の研究

- ①共通研究題 52年に順じ、中学校教育課程編成上の問題点  
……学校裁量の時間の取扱いについて

- ②各地区の実状に応じた問題点の研究を進める

#### 3 編集部

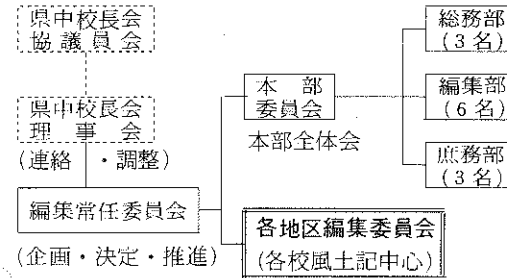
部長 谷田部 康幸

6月3日、部員会議をもち、新年度の役員ならびに栃木県中学校30年誌編集に関する分担等を決定した。

- ・部長 谷田部 康幸 (宇市・晃陽中)
- ・副部長 吉高神猛三郎 (河内・田原中)

30年誌の刊行については、会として特別な編集委員会を設け、別途に独自の活動をする事となった。この際、会専門部の編集委員会、主として内容の約半分に当る「各校風土記」の編集を担当することとなる。また、部長の谷田部と副部長の吉高神は、本部委員会の中核となった編集部に属して、原稿の割当・執筆要領の作成、執筆依頼と回収ならびに校正事務等に従事した。

30年誌編集委員会組織図



2月9日 第2回部員会を開催、本年度の会報第2号の編集・刊行計画を協議。

- ・例年、年3回刊行していたが、本年は30年誌を刊行する特別な業務ができてしまったので、第2号を休刊とした。
- ・そのかわり、例年の2号と3号をいっしょにして、頁数の多い第2号を刊行したのである。
- ・体裁は、従来バラ組みだったのを背のりづけとしたり、紙質をよくし、印刷もタイプから写植オフセットとして美しいものとした。

#### 4 職員対策部

部長 飯野 昭

昭和52年度、本部会は次の目標（計画）をたてた。

- 1. 校長全員特1等級（教頭全員1等級）の実現
- 2. 永年勤続者の特昇および表彰
- 3. 管理職手当の増額
- 4. 傷休補充教員の増員
- 5. 免許外教科教授担任許可申請の簡素化
- 6. 中学校教職員の旅費の増額

以上の計画に従って、全日中給与対策部、栃管協、その他関係機関と連絡提携を図りながら、要望、研究討議等を重ねた。その間、各地区委員の方々の熱心な研究や情報交換、意見交換等により部会の活動が実のりあるものとなったことに対し深く感謝いたします。以下、経過及び内容について略記します。

- ① 6月3日…部会開催（旭中会議室）年間計画、組織等について協議、決定
  - ア. 部長 飯野 昭（城山中）
  - 副部長 増淵 益三（上河内中）
  - 副部長 縫田新三郎（藤岡二中）
- 1. 昭和52年度年間計画作成
- ② 6月30日…全日中給与対策部会出席（国立教育会館）主として文部省への要望事項について（校長職給与、管理職手当、主任手当の増額、及び全日中30周年記念行事関係、皇太子、同妃の警備分担等）
- ③ 7月4日…全日中給与実態調査提出
- ④ 11月28日…部会研修会、給与関係、人確法関係、情報交換等（講師、田野辺栃管協事務局長）
- ⑤ 2月10日…全日中給与対策特別委員会出席（国立教育会館）、主として人確法第3次給与改

善（2回目分229億円）について  
 ⑥ 2月28日…全日中給与対策部会（国立教育会館）今後の教員給与改善について  
 ア、管理職手当校長20%、教頭16%に上げ  
 イ、主任の範囲の拡大と弾力的運用等の要望事項の確認、協議  
 最後に、本県において、校長の特1等級、教頭の1等級の実現、分校主任の教頭昇格、昇短個所（2等級）存続決定、永年勤続特昇該当者の年令引き下げ、傷補教員の増員等、勤務条件、待遇等が一段と改善されたことに対しては、関係機関はもとより、校長会会員諸兄のご尽力のたまものであり、特に、教育尊重の船田知事の実行力、ご英断にまつところ大であったことを付記して、諸兄とともに哀心から感謝申し上げたい。

## 5 進路対策部

部長 篠原俊雄

現在、進路対策については、特に中学校教育を左右するような問題もあり、部員は多忙な中であって限られた予算内で精いっぱい活動された。

昭和52年度においては活動計画に基いて、多くの山積する問題の中で特に、①県立高校推薦入学制について ②公立高校入試方法の全般的な改善策等について研究協議を行った。なお、これらの対策協議にあつては時に県教委高校教育課、義務教育課の関係者、高等学校長代表者等の御出席をもお願いして充実した協議がなされた。

特に推薦入学制については、第1年目の実施結果からみてその趣旨の徹底策、推薦入試の学科の拡大、定員に対する推薦のワクの拡大問題などについて検討した。さらに公立高校入試方法については、昭和53年度から新教育課程の移行期に入ることから、昭和54年3月に実施される入試のための学力検査の出題内容、範囲等について検討し、会長を通じ県教委へ要望書を提出した。（52. 10. 4）その県教委からの回答については県中学校長会の会報に掲載したとおりである。

続いて2月下旬、県立高校入学者選抜方法についてのアンケート実施中であり、これは3月中に集計が完了する見込みである。このアンケートは、県立高等学校長会でも同一内容で行われつつあるもので、その結果は昭和54年3月実施の県立高校入試方法の改善に大いに役立つものと思う。また集計結果は次の会報で報告できるものと思う。

なお、昭和52年度活動された進路指導対策部員は次のとおりである。

篠原俊雄（宇）鈴木元次郎（河）平沢勉（上）横田正一（芳）森田守一（枋）稲葉乙彦（小）岸正正一（下）兼崎才助（塩）菊池玄（那北）大谷広志（那南）小竹正美（佐）村壺清三郎（安）小貫義太郎（足）

## 6 修学旅行部

部長 谷沢八郎

- 6月3日、第1回の県部会を開き組織をつくる。
- 6月9・10日 関修委総会出席 大洗  
組織づくり、事業計画の協議・各県の情報交換
  - 6月23・24日 三地区（関東・東海・近畿）  
修学旅行連絡協議会総会出席 下田  
組織づくり・事業・調査活動などの協議
  - 6月27日 第2回県部会 陽東中  
予算・事業計画の協議・前年の修学旅行に関するアンケートの集計方法の討議
  - 7月5日 第1回関修委出席 東京  
54年度新幹線割付方針の協議・文部省への陳情
  - 9月13日 第2回関修委出席 東京  
54年度新幹線割付・現地研修視察計画の検討
  - 9月30日 第3回県部会 一条中  
修学旅行に関するアンケートの考察協議
  - 11月11・12日 第3回関修委出席 塩原  
研究発表会、現地研修視察などの計画討議
  - 11月18・19日 三地区連絡協議会出席 有馬  
修学旅行の実態調査、新幹線輸送計画など検討
  - 11月25日 第4回県部会 一条中  
修学旅行のあり方について協議
  - 12月17日 第4回関修委出席 東京  
54年新幹線割付の一部修正
  - 1月31日 第5回関修委出席 東京  
こだま号の指定席号車可動方式の検討
  - 2月20日 第5回県部会 一条中  
こだま号の指定席号車可動方式について・県部会としての対策協議
  - 2月23日 研究発表会 成田  
修学旅行における道徳教育の実践、松戸三中、  
本県より9名参加

## 7 福利厚生部

部長 小川禎三

昭和52年度福利厚生部会の活動について次のとおり報告いたします。

- 4月10日までに各地区により専門部員の報告いただき、5月7日（土）県中学校長会総会の当日決定報告
- 6月3日（金）理事・専門部合同会議を開催し、新年度役員の選出。昭和52年度の事業計画の審議すると共に昭和51年度の実績報告、承認。
- 8月22日・23日 金港堂社長、編集課長を招き生徒手帳・校務手帳・教務手帳の編集を行う。
- 10月、安全教育読本栃木版の内容検討し、採用について各校にあっせんする。
- 1月、安全読本（東京書籍）道徳読本（文教社）生徒手帳（金港堂）の採用について、申込みのない学校に採用依頼する。
- 53年2月本年度福利厚生部会の活動について反省会を開催する。

例年のとおりであるが、上記三点の書籍については、いずれも県中学校長会が発行者になっておりますので、内容ご検討の上、多数のご採用くださることをお願いいたします。本会の業績は校長会の活動に寄与すること大なるものがありますので、よろしく願いいたします。

以上のとおり報告いたします。

昭和52年度栃木県中学校長会 会計決算書

1. 収入額 2,666,893円  
 2. 支出額 2,376,659円  
 3. 残 額 290,234円

収入の部

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較		摘 要
			増	減	
1. 会 費	990,000	990,000			6,000円×165校
2. 補 助 金	1,254,000	1,254,000			7,600円×165校
3. 繰 越 金	204,340	204,340			
4. 雑 収 入	200,000	218,553	18,553		福利厚生より20万円銀行利子18,553円
計	2,648,340	2,666,893	18,553		

支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	比 較		摘 要
			増	減	
1. 会 議 費	160,000	153,720		6,280	
(1) 総 会 費	50,000	50,000			総会費, 補助
(2) 会 議 費	110,000	103,720		6,280	理事会, 協議員会, 専門部会等
2. 事 務 局 費	920,000	790,439		129,561	
(1) 事 務 費	150,000	148,414		1,586	通信費, 事務用消耗品費
(2) 事務職員手当	620,000	498,575		121,425	事務職員給与手当
(3) 旅 費	150,000	143,450		6,550	旅費
3. 事 業 費	742,000	646,000		96,000	
(1) 研 修 費	100,000	100,000			研修費
(2) 刊 行 費	180,000	180,000			会報
(3) 30周年記念誌費	200,000	200,000			30周年記念誌刊行費
(4) 専 門 部 費	112,000	112,000			16,000円×7専門部
(5) 教育振興費	150,000	54,000		96,000	教育振興対策費
4. 分 担 金	709,500	709,500			
(1) 全日中分担金	577,500	577,500			3,500円×165校
(2) 関プロ分担金	132,000	132,000			800円×165校
5. 積 立 金	30,000	30,000			
(1) 積 立 金	30,000	30,000			事務職員退職積立金
6. 雑 費	32,000	31,000		1,000	
(1) 雑 費	32,000	31,000		1,000	広告代, 事務室借用, 燃料代
7. 予 備 費	54,840	16,000		38,840	
(1) 予 備 費	54,840	16,000		38,840	
計	2,648,340	2,376,659		271,681	

差引残額 290,234円は次年度へ繰越します。

昭和53年3月29日  
 栃木県中学校長会長 伊藤 守 ㊟  
 “ 事務局長 赤石沢 一 明 ㊟  
 “ 会計部長 新井 康之 ㊟

監査の結果, 証ひょう書類等がよく整備され誤りのないことを認めます。

昭和53年3月29日  
 栃木県中学校長会監事 小貫 義太郎 ㊟  
 五十嵐 弘 ㊟  
 渡辺 万作 ㊟

昭和52年度栃木県小・中学校長会 慶弔会決算書

1. 収入額 2,034,379円  
 2. 支出額 1,689,550円  
 3. 残 額 344,829円

収入の部

項 目	決 算	付 記
1 繰 越 金	258,379	
2 会 費	1,776,000	3,000円×592人
計	2,034,379	

支出の部

項 目	決 算	付 記
1 51年度退会者記念品代	720,000	@15,000×48人銀盃
2 永年勤続者表彰記念品代	174,000	@1,500×116人アルバム
3 県教委教育功勞表彰記念品代	80,000	@5,000×16人
4 文部大臣表彰(教育功勞)記念品代	10,000	@5,000×2人(小1・中1)
5 県教委永年勤続表彰記念品代	195,000	@3,000×65人(34年)
6 病氣見舞(本年度から@¥10,000)	145,000	@5,000×1人(旧金額) @10,000×14人(新金額)
7 弔 慰 金	305,000	@100,000×3人 5,000×1人
8 花 輪 代	28,000	@10,000×2 @8,000×1
9 雑 費	32,550	要項印刷, 送料等
計	1,689,550	

差引残高 344,829円(次年度へ繰越)

上記のとおり決算報告いたします。

昭和53年3月29日

栃木県小中学校長会慶弔会会長 伊藤 守  
 同上会計 谷田部 康幸

監査報告

監査の結果, 証ひょう書類等整備され, 誤りのないことを認めます。

昭和53年3月29日

栃木県中学校長会監事

足利市立北郷中学校長 小貫 義太郎 ㊟  
 黒羽町立川西中学校長 五十嵐 弘 ㊟  
 益子町立益子中学校長 渡辺 万作 ㊟

昭和53年度栃木県中学校長会会計予算書 (案)

- 1. 収入額 2,734,234 円
- 2. 支出額 2,734,234 円
- 3. 残 額 0 円

収入の部

項 目	53年度予算額	52年度予算額	比 較		摘 要
			増	減	
1. 会 費	990,000	990,000			6,000円×165校
2. 負 担 金	1,254,000	1,254,000			7,600円×165校
3. 繰 越 金	290,234	204,340	85,894		
4. 雑 収 入	200,000	200,000			預金利子, その他
計	2,734,234	2,648,340	85,894		

支出の部

項 目	53年度予算額	52年度予算額	比 較		摘 要
			増	減	
1. 会 議 費	160,000	160,000			
(1) 総 会 費	50,000	50,000			総会費
(2) 会 議 費	110,000	110,000			理事会, 協議員会等
2. 事 務 局 費	979,000	920,000	59,000		
(1) 事 務 費	150,000	150,000			通信費, 消耗品等
(2) 事務職員手当	629,000	620,000	9,000		事務職員給与手当
(3) 旅 費	200,000	150,000	50,000		旅費
3. 事 業 費	740,000	742,000		2,000	
(1) 研 修 費	100,000	100,000			研修費
(2) 刊 行 費	350,000	180,000	170,000		会報3回発行
(3) 専 門 部 費	140,000	112,000	28,000		20,000円×7 専門部
(4) 教育振興費	150,000	150,000			
(5) 30周年記念誌		200,000		200,000	
4 分 担 金	709,500	709,500			
(1) 全日中分担金	577,500	577,500			3,500円×165校
(2) 関プロ分担金	132,000	132,000			800円×165校
5. 積 立 金	30,000	30,000			
(1) 積 立 金	30,000	30,000			事務職員退職積立金
6. 雑 費	30,000	32,000		2,000	
(1) 雑 費	30,000	32,000		2,000	広告, 借用代, 燃料代
7. 予 備 費	85,734	54,840	30,894		
(1) 予 備 費	85,734	54,840	30,894		
計	2,734,234	2,648,340	85,894		

昭和53年度 栃木県中学校長会役員 (案)

理 事 (地区1名, 計13名)

地 区	氏 名	校 名
宇 都 宮	篠 原 俊 雄	一 条 中
河 内	増 淵 益 三	上 河 内 中
上 都 賀	平 沢 勉	鹿 沼 西 中
芳 賀	橋 本 久 郎	益 子 七 井 中
栃 木	大 塚 清	寺 尾 中
小 山	館 野 竹 男	小 山 中
下 都 賀	新 井 次 郎	岩 舟 中
塩 谷	渡 辺 忠 男	喜 連 川 中
北 那 須	植 竹 幸 重	大 田 原 中
南 那 須	大 谷 広 志	烏 山 中
佐 野	岩 島 喜 四 郎	南 中
安 蘇	神 山 邦 夫	葛 生 中
足 利	大 嶋 広 雄	足 利 一 中

監 事

地 区	氏 名	校 名
上 都 賀	渡 辺 太 一	西 方 中
下 都 賀	岸 正 一	都 賀 中
南 那	大 野 豊 寿	小 川 中

事 務 局

会 長	篠 原 俊 雄	一 条 中
副 会 長	増 淵 益 三	上 河 内 中
	岩 島 喜 四 郎	佐 野 南 中
	渡 辺 忠 男	喜 連 川 中
	上 野 政 司	陽 東 中
事務局 局長	赤 石 沢 一 明	姿 川 中
	谷 沢 八 郎	城 山 中
事務局 次長	栗 原 和 友	清 原 中
	新 井 康 之	瑞 穂 野 中
会 計 部長	島 方 幸 男	横 川 中
	増 淵 増 雄	豊 郷 中
	谷 田 部 康 幸	晃 陽 中
	柳 田 明	国 本 中
庶 務 部長	森 永 信 雄	星 が 丘 中
	川 島 平 八 郎	宮 の 原 中
	増 淵 重 雄	泉 が 丘 中
庶 務 部 員	高 柳 久	雀 宮 中
事務局 員		
事務局 員	築 島 知 子	

地区別 協議員・会員数

地区名	協議員数	会員数
1 宇都宮	4	18
2 河内	2	7
3 上都賀	8	33
4 芳賀	4	16
5 栃木	2	7
6 小山	2	8
7 下都賀	3	11
8 塩谷	3	11
9 北那須	6	23
10 南那須	2	9
11 佐野	1	6
12 安蘇	1	4
13 足利	3	12
計	41	165

栃木県中学校長会 退会者

退職によるもの (17名)

1 伊藤 守	宇	宇・陽西中
2 飯田 弘	〃	宇・陽北中
3 渡辺 大三郎	〃	宇・星が丘中
4 桑島 得二	上	日光東中
5 君島 光夫	下	石橋中
6 鈴木 忠一	〃	大平中
7 和気 政夫	塩	船生中
8 小池 秀夫	〃	高根沢阿久津中
9 菅又 隆典	〃	北高根沢中
10 津浦 敏憲	〃	上江川中
11 金森 俊男	北那	湯津上中
12 渋井 敏郎	〃	那・東陽中
13 豊田 与一郎	南那	小川中
14 星 博	〃	馬頭中
15 高野 末吉	〃	大山田中
16 藤掛 良一	安蘇	田沼西中
17 村 檉 清三郎	〃	葛生中

転出によるもの (小学校長等へ12名)

1 加賀美 静 男	宇	豊郷中
2 飯野 昭	宇	城山中
3 酒井 登	上	中宮祠中
4 石戸 泰 弘	上	西川中
5 小池 静	上	湯西川中
6 関 興	芳	中川中
7 荒井 光 三	芳	大内中
8 深沢 泉	那北	親園中
9 人見 栄	那北	西那須野中
10 青柳 勇 進	那南	大内中
11 増田 英 一	足	西中
12 平野 良 彦	足	富田中

栃木県中学校長会

永年勤続受賞者

5年勤続 (9名)

1 増 淵 重 雄	宇	泉が丘中
2 巻 島 武 男	宇	陽西中
3 大 橋 正 道	上	南押原中
4 加 藤 富 雄	上	大沢中
5 米 山 滋 夫	栃	南中
6 深 沢 泉	那北	前(親園中) 現 那須教育事務所
7 尾 花 悟	佐	赤見中
8 成 瀬 良 雄	足	毛野中
9 塩 田 富 吉	足	西中

10年勤続 (13名)

1 平 沢 勉	上	西中
2 阿 部 泰 昌	上	北犬飼中
3 沼 尾 省 治	上	豊岡中
4 大 貫 好 市	上	藤原中
5 石 田 享	芳	物部中
6 平 岡 芳 太 郎	小	第二中
7 徳 田 代 吉	下	藤岡第一中
8 兼 崎 才 助	塩	船生中
9 五 月 女 正 男	塩	阿久津中
10 大 宮 司 敏 晴	那北	湯津上中
11 宮 崎 一 郎	那南	七合中
12 池 沢 嘉 夫	佐	北中
13 大 和 田 豊	足	第三中

15年勤続 (3名)

1 篠 原 俊 雄	宇	一条中
2 植 竹 幸 重	那北	大田原中
3 菊 地 玄	那北	川西中

# 専門部員

## (調査部)

- 1 赤石沢 一明 宇 姿 川 中
- 2 栗原和友 “ 清原原中 中
- 3 塚原 茂 河 南河内 中
- 4 沼尾省治 上 豊岡 中
- 5 仲島信一 芳 芳賀 中
- 6 森田守一 栃 栃西 中
- 7 長浜 精 小 間々田 中
- 8 縫田 新三郎 下 藤岡二 中
- 9 長谷川 通 塩 大宮 中
- 10 福田守雄 北那 黒羽 中
- 11 西山政典 南那 大山田 中
- 12 山本 浩 佐 城東 中
- 13 小竹正美 安 田沼東 中
- 14 蓮沼恒八 足 愛宕台 中

## (研修部)

- 1 河又英一 宇 陽北 中
- 2 渡辺正利 河 古里 中
- 3 野沢芳雄 上 鹿東 中
- 4 渡辺万作 芳 益子 中
- 5 田村哲夫 栃 皆川 中
- 6 平岡芳太郎 小 小山二 中
- 7 瀬下吉雄 下 野木 中
- 8 五月女正男 塩 阿久津 中
- 9 星 忠直 北那 高林 中
- 10 大橋敏郎 南那 下江川 中
- 11 新井角治 佐 吾妻 中
- 12 野城 博 安 常盤 中
- 13 大和田 豊 足 足三 中

## (編集部)

- 1 高柳 久 宇 雀宮 中
- 2 谷田部 康幸 “ 晃陽 中
- 3 吉高神 猛二郎 河 田原 中
- 4 斎藤 邦彦 上 北押原 中
- 5 藤間 欣二郎 芳 逆川 中
- 6 森田 孔三 栃 東陽 中
- 7 玉野 安一 小 大谷 中
- 8 橘川 均 下 大平 中
- 9 太田 友一 塩 泉 中
- 10 手塚 賢次郎 北那 日新 中
- 11 大野 豊寿 南那 小川 中
- 12 池沢 嘉夫 佐 佐北 中
- 13 福地 政男 安 田沼西 中
- 14 木沢 日出夫 足 坂西 中

## (職員対策部)

- 1 島 方 幸男 宇 横川 中
- 2 柳田 明 “ 国本 中
- 3 増淵 益三 河 上河内 中
- 4 阿部 泰昌 上 北犬飼 中
- 5 関 裕 芳 茂木 中
- 6 伏木 友男 栃 吹上 中
- 7 川津 敬介 小 美田 中
- 8 諸沢 鶴夫 下 石橋 中
- 9 角海 忠一 塩 上江川 中
- 10 桜井 宣男 北那 黒磯 中
- 11 笹沼 政男 南那 馬頭 中
- 12 岩島 喜四郎 佐 佐南 中
- 13 神山 邦夫 安 葛生 中
- 14 成瀬 良雄 足 毛野 中

## (修学旅行部)

- 1 谷沢 八郎 宇 城山 中
- 2 増淵 増雄 “ 豊郷 中
- 3 荒川 正男 河 明治 中
- 4 大貫 好市 上 藤原 中
- 5 菅谷 重夫 芳 真岡 中
- 6 米山 滋夫 栃 栃南 中
- 7 山中 福一 小 桑 中
- 8 石川 太四郎 下 南犬飼 中
- 9 神島 誓良 塩 氏家 中
- 10 坂本 博 北那 箒根 中
- 11 大木 好文 南那 境 中
- 12 池沢 嘉夫 佐 佐北 中
- 13 野城 博 安 常盤 中
- 14 塩田 富吉 足 西 中

## (福利厚生部)

- 1 小川 禎三 宇 陽南 中
- 2 小林 一郎 河 上三川 中
- 3 茅島 治男 上 永野 中
- 4 榎戸 隆夫 芳 中村 中
- 5 大塚 清 栃 寺尾 中
- 6 平野 勇 小 豊田 中
- 7 猪野 富夫 下 壬生 中
- 8 杉田 清夫 塩 北高根沢 中
- 9 佐藤 栄 北那 東那須野 中
- 10 宮崎 一郎 南那 七合 中
- 11 島田 一 佐 西 中
- 12 福地 政男 安 田沼西 中
- 13 大蔵 寛 足 富田 中

## (進路対策部)

- 1 川島 平八郎 宇 宮の原 中
- 2 巻島 武男 “ 陽西 中
- 3 鈴木 元次郎 河 本郷 中
- 4 須藤 光二 上 日東 中
- 5 横田 正一 芳 山前 中
- 6 伏木 友男 栃 吹上 中
- 7 稲葉 乙彦 小 絹 中
- 8 岸 正一 下 都賀 中
- 9 兼崎 才助 塩 船生 中
- 10 菊地 玄 北那 川西 中
- 11 星 裕 南那 大内 中
- 12 尾花 悟 佐 赤見 中
- 13 小竹 正美 安 田沼東 中
- 14 小貫 義太郎 足 北郷 中



# 栃木県中学校長会規約

(一部改正案)

## 第1章 名称及事務所

第1条 本会は、栃木県中学校長会と称する。

第2条 本会は、事務所を会長の指定するところにおく。

## 第2章 目的及事業

第3条 本会は、中学校教育の振興を図ることを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために、下の事業を行なう。

- 1 中学校教育の調査研究
- 2 教育振興に関する運動
- 3 その他、必要なる事項

## 第3章 組織

第5条 本会は県下中学校長をもって組織する。

## 第4章 役員

第6条 本会に下の役員を置く。

- |     |     |
|-----|-----|
| 会長  | 1名  |
| 副会長 | 4名  |
| 理事  | 若干名 |
| 協議員 | 若干名 |
| 監事  | 3名  |

第7条 前条の役員の任務は、下の通りとする。

- 1 会長は、本会を代表して会務を統括する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長事故あるとき

はこれを代行する。

3 理事は、理事会協議員会に出席し会務の運営にあたる。

4 監事は会計事務の監査にあたる。

第8条 役員は、下の方法で選出する。

1 会長、副会長、監事は、協議員会で決定し総会で報告する。

2 理事は、各郡市中学校長会長及び事務局長、事務局各部長、各専門部長をあてる。

3 協議員は、四校につき1名の割合で各郡市中学校長会が互選する。

第9条 役員の任期は1か年とし再選を妨げない。但し、補欠役員の任期はその残任期間とする。

## 第5章 会議

第10条 本会の会議は、下の通りとし会長が招集する。

- 1 総会（定期総会は毎年5月に行なう）
- 2 協議員会
- 3 理事会

第11条 前条会議の任務は、下の通りとする。

- 1 総会は、本会の最高決議機関で事業計画、予算決算その他重要事項を議決する。
- 2 協議員会は、総会に次ぐ決議機関で必要事項について審議する。
- 3 理事会は、総会、協議員会で決議された方針に従い会務を執行する。

第12条 すべての会議は定員の過半数で成立し、議決は出席者の多数決による。

## 第6章 事務局・専門部

第13条 本会は第4条の事業を行なうため下の事務局・専門部を置く。

- 1 事務局は庶務・会計部を置く。
- 2 専門部は調査・研修・編集・職員対策・進路対策・修学旅行・福利厚生とする。

第14条 事務局には局員、部には部員若干名を置き、左の方法で選出する。

- 1 事務局員は、会長の委嘱による。
- 2 編集部は、各地の代表をあてる。
- 3 その他の部は、理事会にはかり会長がこれを委嘱する。

第15条 事務局には局長、次長各部員を、専門部には部員の互選により正副部長を置く。

第16条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってあてる。

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

## 付 則

第18条 規約の改正は、総会の決議により運営に必要な細則は協議員会で定める。

第19条 本規約は、本会が設立された昭和22年12月12日から施行する。

昭和38年5月4日改正

昭和43年5月4日改正

昭和44年5月10日改正

昭和48年5月12日改正

昭和53年 月 日改正

## 栃木県小中学校長慶弔会規定

第1条 この会は栃木県小中学校長慶弔会といい、事務所を会長所在の学校におく。

第2条 この会は栃木県小学校長会会員、栃木県中学校長会会員をもって組織する。

第3条 この会は一定の会費によって、会員相互の共栄互助をはかることを目的とする。

第4条 この会の目的を達成するため次のことを行なう。

1. 会員が退会したときは賤別金15,000円を贈る。
2. 会員が死亡したときは弔慰金 100,000円と花輪1基（時価相当）を贈る。
3. 会員が1か月以上に亘る傷病休暇の場合は見舞金10,000円を贈る。
4. 会員の配偶者が死亡した場合は弔慰金20,000円を贈る。
5. 会員の永年勤続者の表彰を行なう。（表彰内規は別に定める。）
6. 県以上の表彰を受けた場合には記念品（3,000円程度）を贈る。
7. その他必要ある場合は協議の上措置する。

第5条 この会に次の役員をおく。役員任期は1か年とする。

- |          |     |
|----------|-----|
| 1. 会長    | 1名  |
| 2. 副会長   | 1名  |
| 3. 理事    | 若干名 |
| 4. 評議員   | 若干名 |
| 5. 庶務・会計 | 4名  |
| 6. 会計監査  | 4名  |

第6条 会費は会員一人当たり 3,000円とする。

第7条 会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第8条 この規定の改正は評議員会によって決定し、各校長会に報告するものとする。

第9条 この会の運営は次のとおり定める。

1. 会務は小中学校1年交替である。
2. 会長、副会長は、小中学校長会長が1年交替である。
3. 理事は、小中学校長会の理事があたる。
4. 評議員は小学校校長会の評議員と中学校校長会の協議員があたる。
5. 庶務会計は、会務担当の校長会より選出する。
6. 会計監査は、小中学校校長会の監査員があたる。

付 則

1. この規定は昭和38年1月1日より施行する。
2. 昭和41年4月1日一部改正
3. 昭和48年4月1日一部改正
4. 昭和52年4月1日一部改正

第4条表彰内規

1. 勤続5年、10年、15年、20年、25年に達した場合
2. 小中校の勤続は通算する。
3. 会員から教育関係の他の職に転じた場合の期間は通算し、会員に復した後に表彰する。
4. 記念品代は当分の間 2,000円程度とする。
5. 表彰状・筒は各小中学校校長会で負担する。

## 第22回総会ならびに第30回関東甲信越地区中学校長研究協議会埼玉大会要項

1. 研究協議会

主 題 [中学校教育課程完全実施のための教育諸条件の整備はいかにあるべきか]

(提案 埼玉・群馬・山梨)

2. 期 日

昭和53年6月14日(水)～6月16日(金)

3. 日 程

日 時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
6月14日(水)						会 計 監 査	理 事 会 議 長、司 会 者 提 案 者 打 合 せ 会		総 会	
6月15日(木)		受 付 10	開 会 式 10	全 体 協 議 10	レ ク リ ー シ ョ ン 30	移 昼 休	動 食 憩		分 科 会 研 究 協 議	
6月16日(金)		受 付	全 体 協 議 宣 言	講 演	閉 会 式	昼 食			教 育 観 察 (自 由)	

4. 分 科 会

分 科 会	協 議 会	担 当
第1分科会	新教育課程の編成はいかにあるべきか。	群 馬 埼 玉
第2分科会	新教育課程実施のための施設設備の改善充実はいかにあるべきか。	栃 木
第3分科会	新教育課程実施に対応する現職教育はいかにあるべきか。	神 奈 川
第4分科会	新学習指導要領の精神を生かしたクラブ活動・部活動はいかにあるべきか。	山 梨
第5分科会	充実した生徒指導の体制づくりはいかにあるべきか。	茨 城
第6分科会	望ましい進路指導のあり方と高校入試制度の改善はいかにあるべきか。	長 野
第7分科会	新教育課程実施にともなう教職員定数はいかにあるべきか。	千 葉
第8分科会	教員養成制度の抜本的改善策はいかにあるべきか。	東 京
第9分科会	僻地校・小規模校における学校運営はいかにあるべきか。	新 潟

5. 記念講演 講 師 NHK解説委員 岡村和夫先生  
演 題 流動する政局

## 第29回全日本中学校長会岩手大会要項

1. 主 題 「豊かな人間形成をめざす中学校教育の推進」
2. 期 日 昭和53年9月27日（水），28日（木），29日（金）
3. 日 程

		8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
第一日	27日 (水)							受 付	全日中常 任理事会	全日中理事会		
									全体協議運営委員会			
									分科会運営委員会			
第二日	28日 (木)	受 付	開 会 式	全体協議会	郷土芸能 昼食移動	分 科 会						
第三日	29日 (金)	受付	文部省説明	講 演	閉 会 式 昼 食	教 育 視 察						

### 4. 分科会研究題

- (1) 中学校新教育課程の編成および運営上の諸問題について (東 北)
- (2) 中学校新教育課程実施に伴う教育諸条件の整備について (関東甲信越)
- (3) 中学校教育における生徒指導のあり方について (四 国)
- (4) 中学校におけるクラブ活動と部活動のあり方について (東海北陸)
- (5) 中学校教育における進路指導のあり方について (近 畿)
- (6) 主任制度に伴う学校運営上の諸問題とその対策について (九 州)
- (7) 専門職として期待される教師像と教員養成制度について (中 国)
- (8) 過疎・過密地帯における学校経営と標準法の改正について (北 海 道)

### 5. 記念講演 演題「漢字と現代生活」

講師 岩手大学教育学部教授 遠藤哲夫氏

栃木県中学校長会報

昭和53年5月1日発行  
 編 集 栃木県中学校長会編集部  
 発 行 栃木県中学校長会  
 { 事務局 宇都宮市一条1-4-17 }  
 { 宇都宮市立一条中学校 }  
 TEL-0286-33-0401